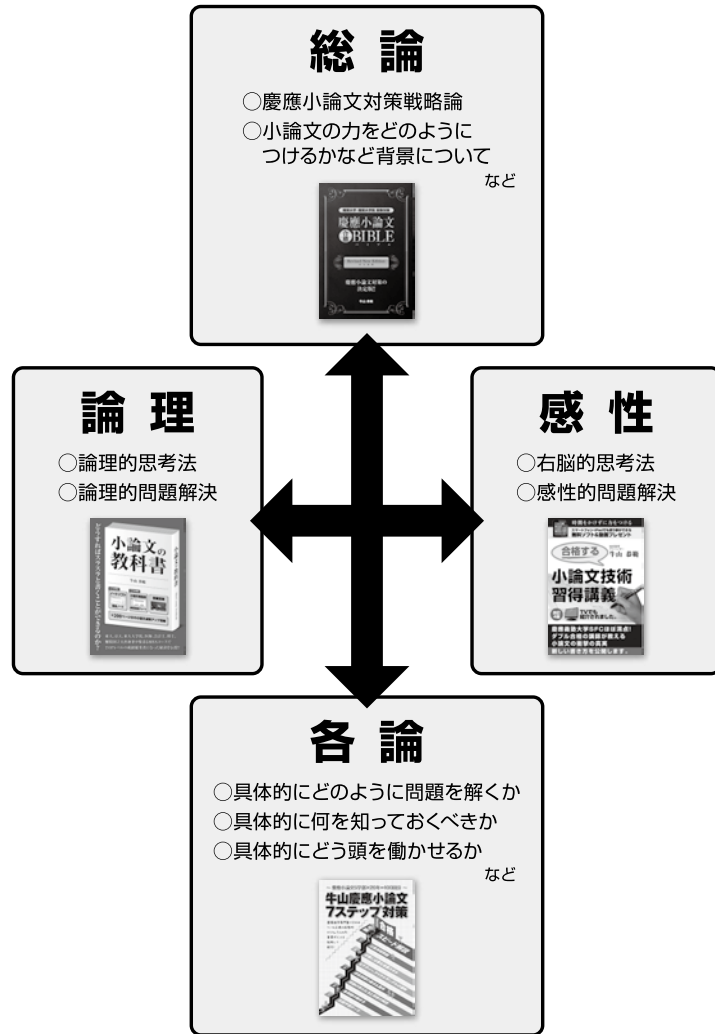


〽慶應小論文5学部×20年〼
〼100回分〽

牛山慶應小論文7ステップ対策

改訂新版

牛山 恭範



慶應大学の過去問題（合計20年×5学部＝100回分以上）から入試問題へ対応できるように

本書は、慶應大学の過去問題に対応できるようにするため、慶應大学の小論文過去問題（合計20年×5学部＝100回分）を分析し、どのように問題を解けばよいか、どのような力をつければよいかを解説し、その上でそれぞれの力の高め方を解説する。

本書の位置づけは、拙著『慶應小論文合格バイブル』の各論版である。『慶應小論文合格バイブル』は、総論的に慶應大学受験生が学ぶべき小論文試験対策をまとめた書籍である。本書は、いわゆるハウツーレベルの解答技術を中心として、要はどう解けばいいのか、何を覚えていけばいいのかなどを端的にまとめていく。私は今までに『小論文技術習得講義』『小論文の教科書』などの書籍を執筆してきた。これらの書籍は、人の頭脳活動から見た場合、『小論文技術習得講義』『小論文の教科書』は右脳のな頭脳の使い方（感性思考重視）、『小論文の教科書』は、左脳のな頭脳の使い方（論理思考重視）をそれぞれ解説している。従って、小論文の書籍を図式化してまとめると、左の図のようになる。

7ステップで考える

本書は慶應小論文の過去問題を取り扱い、ハウツーレベルのノウハウを提供するが、単に過去問題を扱い、解法を解説することはしない。問題配布は二重の著作権侵害となり、口述しても著作権侵害となる。また、問題の解説では合格できないからである。そもそも、各学部約20年分の解法については、既にウェブで十分に解説している。興味がある人はこちらのQRコードを読み取り、内容を確認してほしい。

※各学部20年分の過去問題解説&解答例 ↓



本書では、過去問題の解説と解答例の紹介はインターネット上に任せ、慶應大学小論文の対策を7つのステップで行っていく。それぞれのステップは次のようになっている。

【慶應大学合格の7ステップ】

▼ステップ1 各学部出題予想テーマ20

▼ステップ2 各問題の解き方（問題類型別解法の紹介と解説）

▼ステップ3 問題の作られ方と背景の解説

▼ステップ4 過去問題10年分要点&勘所解説

▼ステップ5 方法に頼らずに、スラスラ書くアプローチ「カンタン123」

▼ステップ6 合格に必要な重要スキルの理解（解説）

▼ステップ7 立論演習問題

勘のいい読者ならお分かりいただけれると思うが、単に問題を解説してもらってもあなたは合格できない。その理由は、以下のようなものだ。(1)「何が大事か」がよく分からないから。(2)分かることとできることは違うから。(3)問題を解くことがゴールになっており、高いレベルで解くことがゴールになっていないから。(4)大学が求めている答案を知らないから。(5)そもそも教えられている答案設計や解き方が妥当性を欠く場合があるから。(6)大学側が求めている人材を見誤っているから。(7)スキル不足だから。(8)論理思考を軽視しているから。(9)重要な背景知識が希薄だから。(10)感性を働かせることができないから。本書はこれらのギャップを短時間で埋めることを目的に執筆されている。先ほどご紹介したオンラインの過去問題解説と合わせて利用していただきたい。

【過去問題は練習用ではなく、分析用】

不合格になる受験生は過去問題を使って練習している。練習すれば結果につながると信じているのだ。しかし、過去問題を使い、練習するとうなるのか。

まず過去問題をやってみる。難しいな……うまく立論できないな……一応書けたな。添削されると何か指摘されたな。解答例を見ると、なんだかうまく書けているっぽいな……終了。この連続で実力を果たして養成できるだろうか。100回やってもほとんど実力を養成できないだろう。こういう練習は「朝から晩まで試合をやっているサッカーチームや野球チーム」のようなもので、大変意味が薄いものである。重要な問いは、結果につながる能力をいかにすればもつとも効率よく鍛えることができるのかという問いだ。

【不合格になる受験生が気を付けるべき注意点】

- ・過去問題ばかりやっている受験勉強は、基礎体力を軽視し、基本動作を行わないスポーツのうなもので、伸びに限界がすぐに来る。
- ・「型にはめて書く小論文」は、複雑な問題に対応できない。
- ・「構文に当てはめる小論文」は、8割以上の学生が使いこなせない。
- ・「ネタを仕込む小論文」は論理的に破たんした作文になっていることが少なくない。

あなたが合格するためには、問題を解きまくる以外に以下のことが大切だ。

【対応する力以外の実力養成について】

- 1) 論理に強くなること（立論ができるようになること。論理構造を見抜くことができるようになること）。
- 2) 知見を広げること（物事を理解すること。興味を持ち、ニュースや最新情報に関心を持つこと。新しい知識を得ること）。
- 3) 復習をきちんとして同じ間違いをしないこと（自分の至らなさに目を向けること）。
- 4) 論文の書き方などの規範を理解すること。
- 5) 研究計画書の書き方など、背景を理解すること（近年SFCではこの手の出題が多いため）。
- 6) その他に必要な重要スキルを強化すること。

はじめに

慶應大学の過去問題（合計20年×5学部＝100回分以上）から入試問題へ対応できるように……	4
7ステップで考える……	6
本書の指導方針で全国1位の生徒を2年連続で輩出……	10

第一章 各学部出題予想テーマ20

出題予想について重要なこと……	20
「出題傾向」と「実力」は別であることを忘れるべからず……	21
慶應大学文学部出題予想テーマ20……	22
慶應大学法学部出題予想テーマ20……	24
慶應大学経済学部出題予想テーマ20……	26
慶應大学総合政策学部出題予想テーマ20……	28
慶應大学環境情報学部出題予想テーマ20……	30

第二章 各問題の解き方 問題類型別解法の紹介と解説

説明問題の解き方概要……	34
説明問題の具体的な解き方……	35
学部別説明問題の注意点……	37
要約問題の解き方概要……	38
述べる問題の解き方……	42
論じる問題の解き方……	45
筑波大学名誉教授いわく、95%の小論文本は不適當？……	49
譲歩構文の考え方（確かに〜しかし）……	52
反論を書き、再反論を書く考え方……	54
原因を書き、対策案を書く考え方……	55
原因を書き、解決策を書く考え方……	57
イシューツリーによる構造的問題点の整理分析（非物理軸・概念軸）……	61
混ぜても点数が下がるだけ……	62
「本質的な問題点」を定義し、解決策を述べる考え方……	63
説明用練習課題……	68
資料（以下の資料を用いて考察すること）……	69
考えてみよう……	74
「憶測の原因」ではなく、事実に基づいて問題を分析しよう……	77

スラスラ書くための2つのアプローチ	186
書けないからという理由でテクニクに頼るのは危険	187
「書けたら合格の試験」ではない	188
最初は下手に練習する	190
カンタン123というアプローチ	190
ステップ1…広げる	191

第五章 方法に頼らずに、スラスラ書くアプローチ「カンタン123」

合格に役立つ勉強ができていますか？	184
慶應大学総合政策学部小論文「勘所・着眼点」連続解説	175
慶應大学総合政策学部小論文「勘所・着眼点」連続解説	163
慶應大学経済学部小論文「勘所・着眼点」連続解説	155
慶應大学法学部小論文「勘所・着眼点」連続解説	139
慶應大学文学部小論文「勘所・着眼点」連続解説	126
過去問題の「要点」連続解説	114

第四章 過去問題の「要点」スピード解説 過去問題10年分要点&堪所解説

間違いだらけの小論文対策	100
なめられている論理思考	101
作問者が一般的に考察するステップ	104
出題意図の見抜き方と学生の資質を見る方法	105
問題の裏に隠された出題意図を把握する	109

第三章 問題の作られ方を理解する

カンタン5ステップ解法	98
頭の働かせ方	95
研究系問題の解き方・考え方	93
発明型問題の書き方	92
アイディア型と、提案型の混合タイプも存在する	90
提案型問題の書き方	84
説明用練習課題2	83
「対策案の有効性」もデータで検証することができる	81
何の資料も無い場合の考え方	80

ステップ2…まとめる……………	192
ステップ3…押し広げる……………	193
思考テクニクは書き方とは別で考える……………	197

第六章 合格に必要な重要スキルの理解

もしも、最重要のスキルを、たった一日で身につけなければならないとしたら？……………	200
わずか35点？…細かく教えてもらえばもうらうほど、……………	201
合格から遠のいていることにはあなたは気づいているか？……………	202
あえて細かいことを省いて、ド短期で対策を試みよう……………	203
紙面の都合により、ネットから音声授業をプレゼント……………	203

第七章 立論演習問題

立論能力は論文執筆における中核的な力……………	206
練習問題に取り組み、オンラインで答えを確認しよう……………	207

おわりに

知性と知恵のレベルを引き上げ、プラスアルファを指導してもらえば合格できる……………	210
---	-----

出題予想について重要なこと

何が出るかが仮に分かっていても小論文試験では合格できない。例えば、原発関係の問題が出ると予想し、それが仮に的中したとしても、適切に立論できなければ、小論文試験では点数がもらえない。「知識を書く試験」ではなく、「論理思考の過程を書く試験」が小論文試験だからである。しかし、それでも何が出題されるかが分かれば、手も足も出ずに試験本番で歯が立たないという事態を防ぎやすくなる。

そこで本書では、はじめに、各学部の出題予想テーマを20個ずつ取り上げる。もちろん、当たらないかもしれないが、ここで取り上げたテーマの中には、5年に一度程度出題されるものもある。従って、把握しておき、情報収集するにこしたことはない。

自分が受験する学部以外の出題予想テーマにも一応目を通しておこう。他の学部で出題されるような内容が、自分が受験する学部でも出題される可能性がある。

試験において大事なことは、「あなたが問題をできること」ではなく、「あなたが他の受験生以上の力で、問題に対処できること」である。

「出題傾向」と「実力」は別であることを忘れるべからず

出題傾向に沿った対策をすれば合格できると信じている受験生が多い。そんなことはない。その理由は、実力が不足していれば傾向に沿った対策をしても、試験で点数が低いからである。

数学や英語ならば、「出る問題」が分かれば、あとは暗記と理解の問題である。しかし、小論文は、正解がない唯一の試験である。従って、あなたは「高いレベル」で問題を解けなければ意味がない。テクニク一つでごまかせるような試験ではない。

例えばボクシングのランキングベスト10の選手が10人あなたの前にいたとする。接近戦が得意なファイターもいれば、アウトボクシングが得意なテクニシャンもいるだろう。皆傾向が違う。ところで、彼らの傾向に合わせた対策をすれば素人が彼らに勝てるだろうか。実力が不足していれば、どんなパンチがくるのか分かっていても試合には勝てない。小論文も同じだ。小論文試験における実力とは、各種スキル（読解力、立論能力、ロジカルシンキング、ゼロベース思考、問題発見能力、問題解決能力など）や知見の量である。

牛山慶應小論文 7ステップ対策 改訂新版

2016年4月20日 初版第1刷発行

2017年9月20日 改定版第1刷発行

著者 牛山 恭 範

編集人 清水智則／発行所 エール出版社
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 2-12
信愛ビル 4 F

e-mail : info@yell-books.com

電話 03(3291)0306 / FAX 03(3291)0310

*定価はカバーに表示してあります。

*乱丁本・落丁本はおとりかえいたします。

© 禁無断転載

ISBN978-4-7539-3403-4